

製品名: MARK2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13649**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	85kDa

抗原情報

遺伝子名	MARK2
別名	MARK2; EMK1; Serine/threonine-protein kinase MARK2; ELKL motif kinase 1; EMK-1; MAP/microtubule affinity-regulating kinase 2; PAR1 homolog; PAR1 homolog b; Par-1b; Par1b
遺伝子 ID	2011.0
SwissProt ID	Q7KZI7
免疫原	抗血清はヒト MARK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 10-59

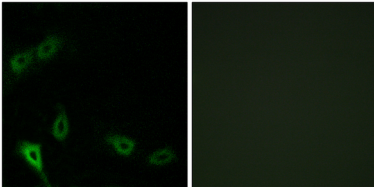
背景

微小管親和性調節キナーゼ2 (MARK2) ホモサピエンス この遺伝子は、セリン / スレオニンタンパク質キナーゼの Par-1 ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は、上皮細胞および神経細胞における細胞極性の重要な制御因子であり、また、いくつかの微小管関連タンパク質のリン酸化および不活性化を介して微小管の安定性を制御しています。このタンパク質は細胞膜に局在します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2009年7月]触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素制御: STE20 関連アダプターアルファ (STRAD アルファ) 擬似キナーゼおよび CAB39 と複合した STK11 による Thr-208 のリン酸化によって活性化されます。機能: 上皮形態形成における役割。肝上皮細胞の形成における円柱状細胞と肝上皮細胞の形成決定を、直接的な頂端タンパク質輸送から細胞輸送への切り替えを促進することで調節する。極性上皮細胞の膜ドメインの非対称的発達に不可欠である。1つまたは複数のアイソフォームが移植片拒絶反応に関与している可能性がある。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。CAMK Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MARK サブファミリー。類似性: KA1 (キナーゼ関連) ドメインを1つ含みます。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含みます。類似性: UBA ドメインを1つ含みます。細胞内局在: 極性上皮細胞で PRKCZ によってリン酸化され、YWHAZ と相互作用して側方膜から頂端膜への再配置を促進します。組織特異性: 心臓、脳、骨格筋、膵臓で高レベルの発現が見られ、肺、肝臓、腎臓では低レベルの発現が見られます。、

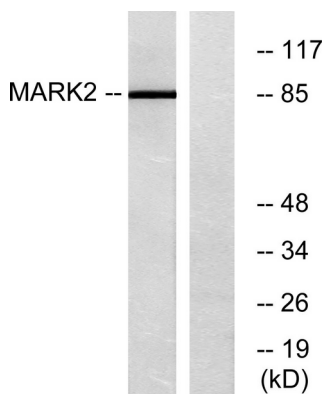
研究分野

微小管ダイナミクスの制御

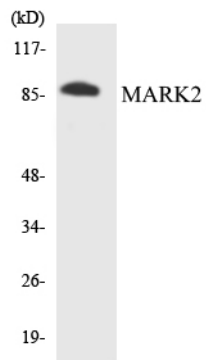
画像データ



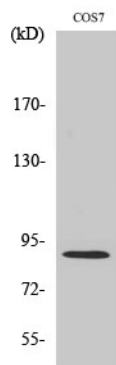
MARK2 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



MARK2 抗体を用いた COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MARK2 抗体を使用した 293 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。



MARK2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析